

北海道映像コンテスト 番組部門（短編・VP）にて

最優秀賞受賞にあたり

宮崎俊彦

数ある力作の中よりこのような評価を頂いた事は、大変嬉しく光栄に思います。今回、受賞しました「北海道プライド 草の牛乳～牛舎のない牛たち～」は、uhb 北海道文化放送のニュース特集で何度か放送された映像に、新たに撮影した映像を加え、再編集したものです。

私は uhb 報道カメラマンとして 30 年近く経ちますが、uhb 報道では、先輩カメラマン達から、自ら取材・撮影・編集をして表現することを伝統として受け継がれて来ました。

カメラマンは、「ただ、指示通り撮影するのではなく、自ら考え、現場で発見し、伝えるものだ！だから、「マン」なのだ！」と、よく言われたものです。

uhb では、その様なカメラマンスケッチ的な放送枠が昔からあり、今回、評価を頂いたミニ番組“北海道プライドシリーズ”は、現在 7 年目に挑戦しており自ら撮影し映像表現する私たちにとっては、貴重な放送枠となっています。

昔と比べると、カメラ機材も随分と便利になりました。手軽に撮影出来る上に、ネット等で露出できるツールも増えています。

“人類・皆カメラ時代”と言われて久しいですが、何をどう撮影し、何を撮らないか。また、現場で何を発見し、どう映像表現するか。

撮影機材は進化し便利になっても、それを扱って映し出す“人の目線”をもった、カメラ“マン”で、今後も、あり続けたいと思います。